2023.11.25

親子で学ぼう「古代人の発明」① 土器の発明1回目(縄文土器)

主催:特定非営利活動法人平安京調查会 https://heiankyo-tyousakai.com/



人類は約26,000前には、土で色々な形のものを作りそれを焼けば硬くて水に溶けないものを作り

出せることを知っていました。

右の写真は、東欧のチェコで約 26,000 前の遺跡から出土した、ヴェストニツェのビーナスと呼ばれている土を焼いて作った女性の人像(ビーナス像)です。

しかしながら、土器・・すなわち土を焼き固めた器は、その 後 6,000 年もの間、世界中のどこにも現れませんでした。

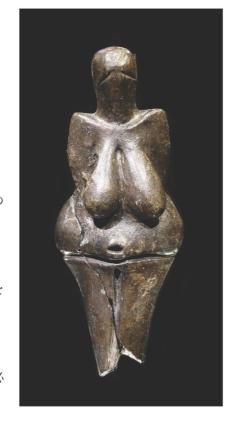
土で好きな形を作り、それを焼いて新たな素材を作る方法を 知っていながら、人類は土器を作らなかったのです。

それは何故なんでしょうか?・・・それは土で焼いた器を必要としていなかったからでしょう。

それが、約20,000年前になると、突然にその土の器が出現するのです。(中国で)

そして、日本列島でも約16,500年前になって作られるようになります。

日本の縄文土器は、世界的にみても最古級の土器です。以前は、ドングリや貝の加工のために、土器が作られ始めたと考えられてきました。しかし縄文時代の始まりは、氷河期の終わり頃です。ドングリはほとんどなく、貝塚もこの時期にはまだ見られないことが明らかになってきました。これでは従来の言われていたことの説明がつきません。(表 1 参照)



日本歴史年表 旧石器時代 40,000~16,000年前 ヴュルム氷期 一般的に70.000~10.000年前 ーリング/アレレード期 草創期 16,000~11,500年前 13,000~11,500前気温急激に低下 早期 11.500~7.000年前 プレボレアル期 気温急激に上昇し安定期 ヒプシサーマル期 7.000~5.500年前 気候最適期 前期 縄文時代 ネオグラシエーション 寒冷期(5,500~5000年前) 三内丸山遺跡全盛期 5,500~4,400年前 4.400~3.200前 晩期 3.200~3.000前? 早期 3.000~2.300年前 水田稲作開始 前期 2.300~2.100年前 弥生時代 中期 2.100~1.950年前 古代後期小氷期(1~2世紀) 吉野ケ里遺跡全盛期 古墳時代 中期 1,600~1,500年前 大型前方後円墳 飛鳥 大化の改新 1,430~1310年前 飛鳥時代 古代後期小氷期 (600~750年) (西暦592~710年) 白鳳 1,313~1,229年前 平城京遷都 奈良時代 (西暦710~794年) 1,229~838年前 平安京遷都 平安時代 (两曆794~1.185年) 奥州藤原全盛期 838~690年前 鎌倉時代 (西暦1,185~1,333年) ウォルフ極小期(1,280~1,350年頃 鎌倉幕府滅亡1,333年) 690~450年前 スペーラー極小期 (1.460~1.550年 応仁の乱1.467~1.477年 (西暦1,333~1,573年) これ以降、戦国時代に突入) 安土桃山時代 (西暦1.573~1.603年) マウンダー極小期(1,650~1,720年 享保の改革1,716~1735年?) 420~155年前 ドルトン極少期(1.790~1.830年 天明大飢饉1782~1788年 天保大飢饉1833~1839年)

表1 日本歴史年表と気候との関係

近年、土器に染み込んだ有機物(おこげ)を分析する技術が飛躍的に進みました。日本の縄文土 器に応用した研究により、古い時期の縄文土器は、魚など水産資源の加工に用いられたことがわか りました。混ざり合った複数の化合物を分離するガスクロマトグラフィーの分析方法によって、水 生生物に特徴的にみられる化合物が集中的に検出されたのです。

なぜ水産物なのか、理由ははっきりとしませんが、土器が何に使われたのかを直接調べることができるようになったのは、考古学研究の大きな進歩と言えるでしょう。土器が生まれた謎に、一歩近づく手がかりになりそうです。



この活動は『子どもゆめ基金』の助成事業で実施しています。

